

ICT活用による離島教育の充実・発展に関する プロジェクト報告 (長崎大学)

Report of Activity about Enhancement and Progress of Isolated Island Education using ICT: Case of Nagasaki University

藤木 卓*, 寺嶋浩介*, 森田裕介*, 古賀雅夫*,
全 炳徳*, 中村千秋*, 西山敏明**, 浦田 武***

FUJIKI Takashi*, TERASHIMA Kosuke*, MORITA Yusuke*, KOGA Masao*,
JUN Byungdug*, NAKAMURA Chiaki*, NISHIYAMA Toshiaki**, URATA Takeshi***

*長崎大学教育学部 〒852-8521 長崎市文教町1-14,

**長崎大学教育学部附属中学校 〒852-8131 長崎市文教町4-23,

***長崎大学教育学部附属小学校 〒852-8131 長崎市文教町4-23

*Faculty of Edu., Nagasaki Univ. 852-8521, Bunkyo 1-14, Nagasaki,

**Attached Middle School of Faculty of Edu., Nagasaki Univ. 852-8131, Bunkyo 4-23, Nagasaki,

***Attached Primary School of Faculty of Edu., Nagasaki Univ. 852-8131, Bunkyo 4-23, Nagasaki

Abstract

Our project about enhancement and progress of isolated island education using ICT was established in order to contribute to the area of isolated island. Because an ability of school children advances through applying the ICT to school education, and we need to resolve various problems raised by folding a lot of isolated islands in our prefecture. In this paper, we described briefly a report of our project activity that is the background of project and purpose, the members, the related project, the outline, the progression and schedule and the future plan.

Key Words: education, ICT, isolated island, Nagasaki

プロジェクトの背景と目的

離島の多い長崎県においては、複式学級の効果的な指導や免許外担当教員による授業の解消、児童・生徒同士の交流機会確保等、多くの教育的課題の解決を余儀なくされている。また情報通信インフラの整備が十分ではなく、テレビ会議システムを用いた学校間交流に代表されるような ICT (Information and Communication Technology) の利活用による離島教育の充実や発展への取り組みは遅れている。デジタル動画による交流は、中学生の国際性変容や意識の国際化に効果がある (森田ほか2004, 藤木ほか2005) ように、ICT の高度な活用は学校を活性化させ、児童・生徒の学力向上を期待できる。そこで、本プロジェクトでは、長崎県内における教員養成を担当する大学・学部の社会的役割を果たすとともに県内学校教育へ寄与する観点から、離島教育の充実・発展のための ICT を用いた教育実践支援を開始することとした。なお本プロジェクトは、鹿児島、沖縄を合わせた三大学連携プロジェクトの「遠隔教育・e-Learning」グループによる活動を兼ねている。

以下に具体的な目的を示す。

- 離島の教育的課題解決のための効果的かつ実践的な方策を，学校とともに研究開発する。その際，地域にある現状の情報通信インフラや情報通信機器を最大限に活用することとし，研究開発の結果が学校や地域で継続利用可能な形態を考える。
- 校舎内やコンピュータ室等の情報通信ネットワーク整備に関わることや，コンピュータ室での情報機器整備に関わることについて，技術的及び作業的な支援を行う。

プロジェクトのメンバー

プロジェクトのメンバーは，すべて教育学部及び同附属教育実践総合センター，同附属学校所属の教員である。

- 古賀雅夫（数理情報講座 [理科]，教授）
- 藤木 卓（生活健康講座 [技術]，助教授）
- 全 炳徳（数理情報講座 [情報]，助教授）
- 中村千秋（数理情報講座 [情報]，助教授）
- 森田裕介（初等教育講座 [情報]，助教授）
- 寺嶋浩介（教育実践総合センター [情報]，講師）
- 西山敏明（附属中学校 [技術]，教諭）
- 浦田 武（附属小学校 [理科]，教諭）

関連するプロジェクト

本プロジェクトは，長崎大学，鹿児島大学，琉球大学の三大学教育学部の連携による事業（離島教育での三大学連携事業）のひとつである，B) 遠隔教育・e-Learningプロジェクトの長崎側担当プロジェクトを兼ねる。

参考：離島教育での三大学連携事業

- A) 離島の子ども理解・成長支援プロジェクト
- B) 遠隔教育・e-Learning プロジェクト
- C) 複式授業充実プロジェクト
- D) 平和・多文化理解プロジェクト

プロジェクトの概要

本プロジェクトの概要について，次に示す。

1) プロジェクトの共同実践校（モデル校）募集

離島地区学校において，本プロジェクトとの共同実践校（モデル校）を募集する。その際，情報通信インフラ整備の有無にはそれほど拘らない。学校が置かれた現状の環境で，最大限の教育効果を上げることをねらいとする。

2) ICT を活用した離島の教育的課題解決については，モデル校との協議により内容等を検討するが，以下のような活動内容の例が考えられる。

- ・現状把握のための学校（教員中心）における実態調査
（学校単位での調査は県により実施，各教員の意識に踏み込んだ調査はない。）
- ・他地区，他県との学校間による交流や情報交換を軸にした学習支援
（道徳遠隔授業：県内，県外小学校間授業，大学生との交流授業）

（理科，生活科遠隔授業：動植物の生育比較授業）

（社会，生活科遠隔授業：郷土や県内の社会，経済，歴史，地理等に関する学習）

例) 3 県の複式学級間をテレビ会議で接続し，同学年の児童生徒同士での交流の場を提供することで，従来複式学級でできなかったことを可能にする．また，この場合，教科によって，異なる学校の先生が複数の学校の児童生徒に対して授業を行うことも考えられる．

- ・小規模校同士，あるいは中・大規模校との交換授業による複式や免外授業の解消（少ない児童・生徒や教科の教員を補い合う形での交換授業）
- ・進路に関する大学生との交流や情報交換を軸にした学習支援（中学校－大学間進路学習）
- ・韓国の学校との交流学习支援（エネルギー環境問題に関する日韓の中学生による討論学習）（韓国との交流を題材とする小中学校での英語学習）
- ・情報モラルに関する遠隔学習支援（長崎県教育委員会推進の小中高における情報モラル学習に関する支援）
- ・以上のような交流学习の企画・運営に必要な支援（コミュニケーション能力育成や総合的な学習 に関する支援）（コンピュータでのコミュニケーション・ツール活用に関する支援）
- ・学校における情報通信環境の整備については，以上のような活動内容のいずれにおいても必要になってくると考えられる．そのため，その都度検討する．

3) その他

- ・本プロジェクトの活動については，長崎県教育委員会への連携依頼を行い，承諾を得ている．
- ・学校との共同による研究開発においては，事前に入念な打合せを行う．
- ・研究開発に関わる費用負担は大学が行うことを原則とするが，支出が難しいものやモデル校において整備するのが妥当なものについては，その都度協議する．

プロジェクトの実施経過と予定

本プロジェクトの実施に関する計画を，次に示す．ただし，モデル校が決定した後の実施については協議しながら進める必要があるので，特に次年度の計画については内容，時期ともかなりの変更があり得る．

H17年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトの活動計画立案 ●離島地区学校でのニーズや課題を把握するための実態調査用項目検討 ※関連する大学の担当者と連携
8月	●三大学連携プロジェクト用テレビ会議システムの動作テスト等の実施
10月	●長崎県教育委員会への協力依頼と連携打合せ
H18年 1月	●対馬市教育委員会への協力依頼と連携打合せ
	●対馬市内小規模校の ICT 環境視察
3月	●シンポジウム等の開催とH17年度のまとめ

- ICT の教育利用に関する講演会実施 (対馬市で予定)
- 4 月 ● モデル校の決定及び連携内容の計画
- プロジェクトの活動計画点検
- 7 月 ● ICT を活用した授業実践 1
- 11 月 ● ICT を活用した授業実践 2
- H19年 1 月 ● H18年度のまとめ

プロジェクトの今後の展開

今年度はプロジェクト立ち上げの年にあたり, 教育委員会との連携や離島地区小規模校の ICT 環境視察等, 計画段階に多くの時間を要した. しかし, ICT による離島教育の充実・発展は中長期的な視野で捉える必要があるとともに, 本学部の中核となる地域連携研究課題として位置づける必要がある. 今後は, さらに足場を固めながらプロジェクトを推進する.

文 献

- 藤木卓ほか 8 名 2005. 高精細動画を用いた多地点接続による中学校間日韓遠隔授業の実践と評価. 日本教育工学会論文誌29(3), 1-10 印刷中
- 森田裕介ほか 8 名 2004. 日韓遠隔授業における中学生の国際性の変容に関する一分析. 日本教育工学会論文誌28(Suppl.), 197-200